



デジタル四次元地球儀（ダジックアース）のオンライン運用

当館では、2016年から別館天文展示室のハンズオン展示として、ダジックアース（デジタル四次元地球儀）を導入しています。これは、球形のスクリーンにPCプロジェクタで地球や惑星を投影し、ジョイスティックを使って自由に回転させて観察することができる展示です。今回、2026年の別館60周年に向けて運用方法をオンライン運用へと刷新しました。プラネタリウム番組や天文現象に合わせて投影する天体やコンテンツを随時変更できるようになり、最新の天文に関する情報も提供できるようになりました。ダジックアースを利用した、天体や天文現象についての解説も実施しますので、多くの方々のご利用をお待ちしております。

## つなぐ ひろがる ～ 学びへつながる体験・発見・交流

## みんなの県立博物館

ここからひろがる鹿児島の自然探究 ～

館長 内 祥一郎

鹿児島県立博物館は、昨年度の登録博物館としての再出発を経て、今年度から標題にお示したフレーズを職員間の共有ビジョンとして掲げることとしました。これは、「こんな博物館でありたい」という職員一人一人の思いを持ち寄り、語り合いながら形にしたものです。日々の展示づくりや調査研究、体験活動の準備の中で、「もっと自然の魅力を届けたい」「ここでの出会いが誰かの学びや発見につながってほしい」という願いが重なり、一つのフレーズとして結実しました。

副題には、博物館での小さな驚きが、やがて県内各地の自然を見つめるまなざしへと広がっていく…そんな私たちの願いを込めています。

常設展示の工夫や企画展、プラネタリウム、子

どもたちの体験活動や、教職員や一般の方々を対象とした自然講座など、このビジョンを土台に多彩な取り組みを進めていきます。こうした活動を通して、訪れた方がワクワクした気持ちになったり、自然を見る視点が少し変わったり…そんな時間をお届けできれば、私たちにとって何よりの喜びです。

「みんなの博物館」として、幼い方から高齢の方まで、県民の皆さまも観光で訪れる方も、どなたでも気軽に立ち寄り、思い思いの楽しみ方ができる場所でありたいと願っています。展示や活動を通して、私たちの思いもそっと感じ取っていただければと思います。

これからも、鹿児島県立博物館で新しい発見と出会っていただければ幸いです。

## 「ジュニア学芸員養成講座」事業

南種子町との共催で「ジュニア学芸員養成講座in南種子町」を実施しました。この事業には、南種子町の小学5年生から高校2年生の11名が参加し、それぞれが希望する昆虫・動物・植物・地質・天文の5分野で、郷土の自然を探究する活動を行いました。



昆虫班は、昆虫の採集と標本の作製を行い、種子島産のカブトムシのオスは、本土産と比べて体が小さいほど角が有意に短いことなどを明らかにしました。

動物班は、センサーカメラを設置して畑に現れるシカを撮影することができました。また、ヌマガエルの背中線の有無を調べました。

植物班は、南種子町に4ヶ所あるマングローブのメヒルギを継続的に観察してその生育状況

を明らかにし、周辺の植物の生育状況についても調査を行いました。

地質班は、地層の観察や化石の採集をとおして種子島の成り立ちについて考えました。また、地層と地形の関係性について考察しました。

天文班は、郷土に伝わる星の伝承を調べ、実際の星空のもとでの星空解説などを行いました。

2月1日には、町の福祉センター大ホールで成果発表会を行い、学校関係者や町民の方々に研究成果を発表しました。児童生徒からは、今後とも研究を続けていきたいという声が多く聞かれ、今後の教育普及活動の進め方について貴重な知見を得ることができました。



## 博物館発！かごしまの自然案内冊子作成事業

本事業では、本館の魅力と鹿児島島の多様な自然の魅力を県内外に広く紹介することを目的として、本館の展示案内冊子の作成を進めました。



展示場での撮影のようす

その中の冊子に掲載する館内展示や標本の写真の多くは、プロのカメラマンに撮影していただき

ました。展示されている標本の多くはガラスケース内にあるため、反射や映り込みを防ぐ必要があり、照明の当て方や暗幕の角度・材質に至るまで細心の注意を払い撮影が行われました。



特設スタジオでの撮影のようす

また、館内の一角に設けられた特設スタジオでは、標本

の形態や質感がより鮮明に伝わるよう撮影されました。さらに、カエルやイモリの生体もスタジオで撮影され、予想できない動きに翻弄されながらも無事に撮影を終えました。そのほかの生体写真や県内各地の風景写真については、本館職員がこれまでに撮影・蓄積してきた資料を活用しました。掲載する文章は担当を決めて執筆しました。



徳之島の海岸

本事業を通して、鹿児島島の自然の魅力や収蔵標本の希少性に改めて気づくとともに、本館の展示が作られた際のねらいを理解するきっかけにもなりました。本事業は今年度で終了しますが、冊子は来年1月の完成を予定しており、今後も原稿の推敲を重ねるとともに、レイアウトやデザインについて関係機関と調整しながら、完成に向けて引き続き取り組んでまいります。

## < 博物館協議会 >

### 魅力ある博物館づくりを目指して

#### — 令和7年度 博物館協議会を開催しました —

当館では、博物館法に基づき、運営の改善やさらなる発展を目的として「博物館協議会」を年に一度開催しています。協議会は学識経験者、学校・社会教育関係者、そして公募委員など10名の委員で構成されており、各委員から多角的な視点で貴重な提言を頂戴しました。

#### 【令和6年度の歩みと今後の展望】

会議の冒頭では、令和6年度の事業報告と令和7年度の実施状況について共有を行いました。

続いて「魅力ある博物館づくり」をメインテーマに、これからの当館が進むべき道について活発な意見交換が行われました。

#### 【委員からの主なご意見】

委員の皆様からは、時代の変化に合わせた発信力の強化等、以下のような具体的なご提案をいただきました。

- ・ PR方法の見直し：従来の広告だけでなく、電光掲示板の設置や動画プラットフォーム（YouTuber など）の活用を検討し、これまで博物館に足を運んでいなかった層へのアプローチを強化すべき。
- ・ アンケートの高度化：来館者アンケートの内容を見直し、得られたデータを精緻に分析することで、利用者のニーズを的確に把握し、展示やサービスの質を向上させることが重要。

#### 【今後の運営への反映】

これらの提言は、当館にとって非常に重要で、また前向きな課題であると受け止めております。

私たち職員一同は、いただいた意見を今後の運営にしっかりと反映させるため、現在、各企画の練り直しや、必要な予算要求に向けた準備を進めております。

## < 移動博物館事業 >

毎年、離島部と特別支援学校を会場に、移動博物館事業をおこなっています。

#### 【鹿児島南特別支援学校】（令和7年6月2日～6月5日）

体育館を会場に、762人の児童生徒、教職員のご来場をいただきました。会場には、剥製や標本など、約1,800点を展示したほか、液体窒素を用いた演示実験や、博物館で飼育しているアオダイショウなどにタッチするコーナーを設置しました。皆さん、思い思いに会場の展示や体験を楽しんでくださり、鹿児島島の自然や生物、博物館を身近に感じてくださったようでした。



#### 【さわることでできる展示物を鑑賞する児童】

#### 【屋久島町】（令和7年10月15日～10月19日）

屋久島町との共催で、安房体育館を会場におこないました。シカやサルなどの鳥獣や、日本や世界の昆虫、植物、化石など5,500点を超える剥製や標本を展示し、屋久島の豊かな自然を紹介するコーナーも設けました。また、屋久島在住の久保田義則氏が収集された、貴重な屋久島の昆虫標本も展示しました。

平日は授業の一環として町内の全小中学校の児童生徒が観覧に訪れました。また休日には多くの家族連れによる観覧に加え、健康の森公園で星空観察会も実施しました。結果、開催期間中、延べ10,015人もの利用者で賑わいました。



#### 【開館セレモニーのようす】

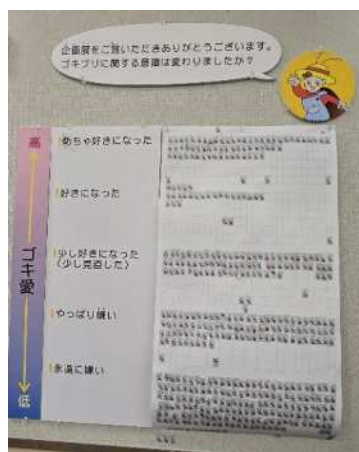
## 企画展を通して

身近にいながら人々からもっとも嫌われる昆虫の代表がゴキブリです。多くの人々が「怖い」「汚い」「気持ち悪い」という三大拒否感を持っているのではないのでしょうか。そこで、ゴキブリにスポットを当て、その多くが森や草地に暮らしていることや、ゴキブリの多様性、あまり知られていない生態などを紹介し、ゴキブリの存在についての理解を深めてもらうことを目的として企画展「ゴキの真実」を開催しました。



当初は、気持ち悪がられて来場者が集まらないのではないかと心配していました。しかし、たくさんの生きたゴキブリを間近で見られることや、大きなマダガスカルゴキブリに触れられることなどが人気となり、中盤から後半にかけては、開館から閉館まで展示室に来場者が絶えない状況でした。親子連れも多く見られましたが、特に特徴的だったのは、大学生などの若い来館者が目立ったことです。

なお、企画展は大成功でしたが、アンケートを見ると、ゴキブリの試練はこれからも続きそうです。



## 学芸室の窓から

10月中旬に実施された屋久島町移動博物館に運営スタッフとして参加した。屋久島での開催は、平成28年度以来10年ぶりであったが、旧上屋久町の中心地「宮之浦」から旧屋久町の中心地「安房」に会場を移しての開催となった。

当初から、教育委員会の担当者の奮闘ぶりは、聞いていたが、そのおかげで、町内の全ての小中学校からの来場が実現し、多くの子供たちに博物館体験を届けることができた。また、週末は、高校生ボランティアクラブ「ぼんだま」に、運営に加わってもらい、臨時学芸員として活躍していただいた。会期中は、地元の方々や本館協力者の方々と、展示物や自然についての話や議論をすることができ、「屋久島の自然」について、有益な情報を多数得ることができた。

移動博物館は、ふだん博物館に行く機会が少ない方々に、身近な場所で博物館体験ができる機会を提供するものであり、開催地の方々には大きなメリットがある。一方で、博物館にとっても、開催地の方々との人的交流や情報交換が図られる点で重要な機会である。南北の長い鹿児島島の博物館が、地方に点在する知財を集積し、活用するためには、このような事業において行われる交流は必要不可欠なものであり、これからも大事にしていきたいと考えている。

次年度は、6月に加治木特別支援学校、10月に南種子町、9年度1月に志布志市において移動博物館事業を実施予定である。今年度以上の活発な人的交流や情報交換が図れることを期待したい。

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館  
〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号  
TEL 099-223-6050 FAX 099-223-6080  
ホームページ <https://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/>